

諸外国の事例と考察

平成28年11月21日（月）
運動・スポーツガイドライン(仮称)策定に向けた作業部会

日本スポーツ振興センター 情報・国際部
本間恵子

JAPAN SPORT
COUNCIL

海外事例：英国のスポーツ戦略(枠組み)

国全体のスポーツ戦略「Sporting Future: A New Strategy for an Active Nation」
(2015年12月発表)

アウトカム

身体的健康、精神的健康、個人の成長、社会・コミュニティの発展、経済発展

アウトプット

国内外におけるスポーツの成功と大規模イベントの効果を最大化
定期的かつ有意義にスポーツ・身体活動やボランティアに参加しスポーツ観戦する人の増加
スポーツ分野・団体の生産性・持続可能性・責任感を高める

アクション

エリート選手やプロシステムのニーズに応え、大規模スポーツイベントを成功させる
顧客のニーズに応え、スポーツ・身体活動に参画できるようにする
スポーツ分野・団体を強化して効率性と弾力性を持たせる

海外事例：英国のスポーツ戦略(主な内容)

国全体のスポーツ戦略

「Sporting Future: A New Strategy for an Active Nation」

政府の役割

中央政府、地方政府、権限移譲した政府（スコットランド、ウェールズ、北アイルランド）

枠組み

アウトプット：定期的かつ有意義にスポーツ・身体活動やボランティアに参加する人やスポーツ観戦する人の増加

参加、身体活動、子供・若者、スポーツの現場で働く人たち（コーチ・インストラクター等）、ボランティア、ライブスポーツ観戦

アウトプット：国内外におけるスポーツの成功と大規模イベントの効果を最大化

国際舞台での成功、国内での成功、大規模スポーツイベント

アウトプット：スポーツ分野・団体の生産性・持続可能性・責任感を高める

財政的な持続可能性、インフラ、スポーツのインテグリティ、ガバナンス、リーダーシップ・運営、安全・福祉

効果測定

アウトカムへのスポーツの貢献度評価、アウトプットの評価(KPIごとに評価)

COUNCIL

RT

海外事例：英国のスポーツ戦略(KPIの例)

国全体のスポーツ戦略

「Sporting Future: A New Strategy for an Active Nation」

スポーツ・身体活動への参加促進 する

KPI 1：過去1ヶ月のスポーツ・身体活動参加率の増加

KPI 2：身体不活動率の減少

KPI 3：運動・健康のために外の場所を利用した大人の割合の増加

KPI 4：身体的リテラシー基準を達成した子供の割合の増加

KPI 5：水泳と自転車の技術を習得した子供の割合の増加

KPI 6：スポーツやアクティブでいることに対する若者の意識向上の割合

スポーツボランティアの増加 支える

KPI 7：過去1年間に2回以上スポーツボランティアを実施した人の増加

KPI 8：スポーツボランティアに関わる人たちが社会全体の構成に沿っている

ライブスポーツ観戦者の増加 観る

KPI 9：過去1年間に1回以上、会場でスポーツ観戦した人の数の増加

骨子案の枠組みについて(案)

- 厚労省が策定しているガイドラインとは異なるものを作る
→「スポーツ」や「スポーツを通じた健康」に焦点
- 諸外国における、スポーツに焦点をあてた戦略や行動指針では、アウトカムやアウトプット、重点領域、KPI等が設定されている。
- KPIを立てることで、評価ができるようになる。



基本法や基本計画に記載されている目的をアウトカムとし、そのためのアウトプットやKPIを検討する。

骨子案の枠組み(案)

アウトカム

スポーツ参画促進、共生社会の実現、地域活性化、スポーツ産業活性化

アウトプット

スポーツの価値（身体的・精神的健康など）の普及
障がい者・女性・高齢者のスポーツ参画増加
スポーツを通じた地域コミュニティのつながり強化

アクション

詳細な現状分析によるスポーツ・身体活動参加の阻害要因の把握=インサイト
現状分析に基づき、対象層ごとに施策立案（ライフステージ別、性別、障がいの有無など）
無関心層や実施頻度の低い層に届くメディア・方法で行動変容に結びつける
KPIによる効果測定とPDCAサイクルで見直し

スポーツ参画に向けて行動変容を促すための視点

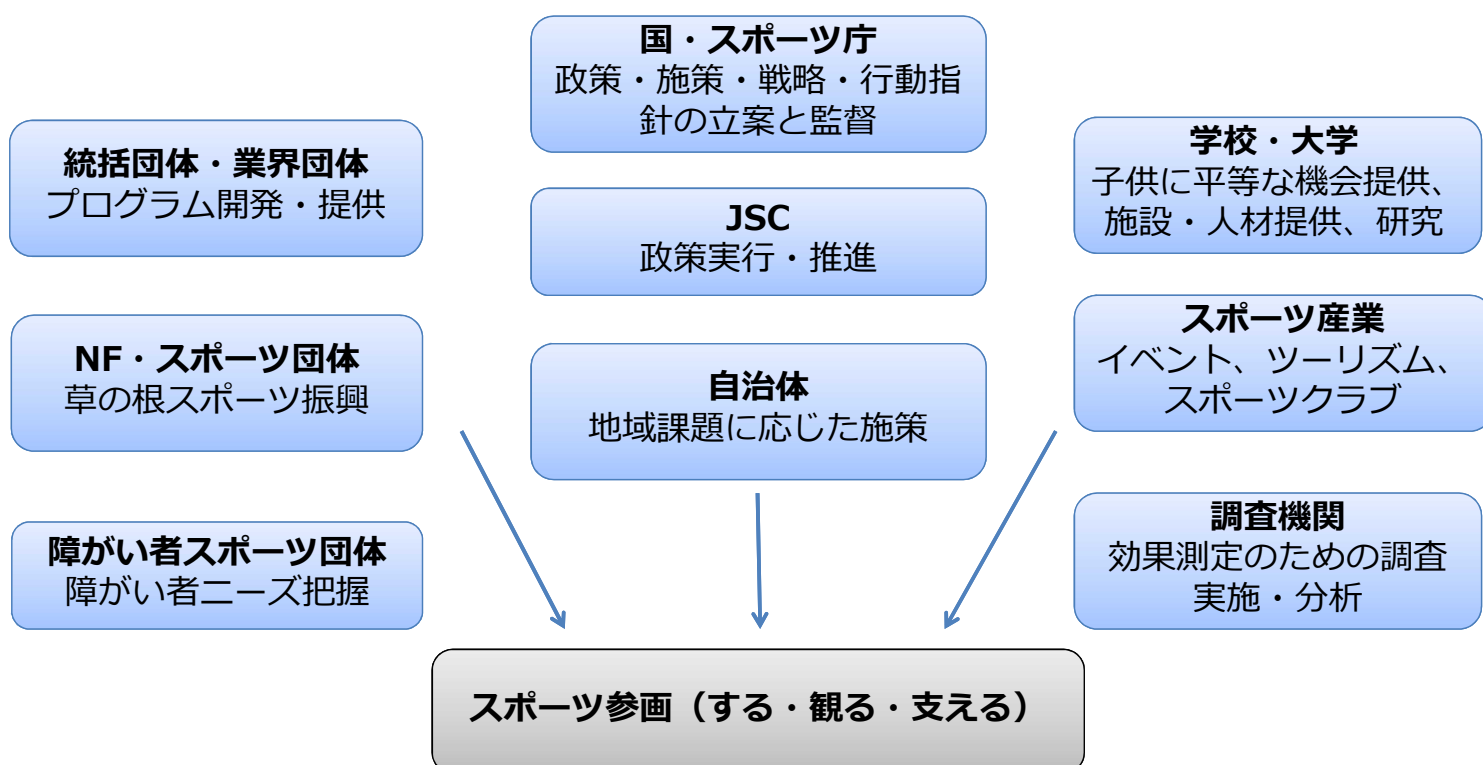
スポーツを消費財と捉え、消費者志向で検討する
→ビジネスマーケティングの視点を応用

- ・ スポーツ実施者・非実施者の意識・行動を深く理解する「インサイト」を実施、動機付けや阻害要因を対象層別に明らかにする（性別・年代・社会経済状況等）
- ・ ライフステージなど対象層に合わせた政策・施策と提供方法を検討する
- ・ 非実施者に届くメディア（SNS等）や方法（ソーシャルスポーツ等）を用いて、無関心層や実施頻度の少ない層にアプローチする



JAPAN SPORT
COUNCIL

骨子案におけるステークホルダーの役割(案)



JAPAN SPORT
COUNCIL

運動・スポーツガイドライン(仮称)策定に向けた作業部会の発表メモ

はじめに

- ・これまでの議事録から、運動・スポーツガイドラインの骨子案策定にあたって、厚労省で策定されている身体活動系のガイドラインとは異なるものであること、戦略や行動指針的なものになりうる可能性があることが伺えた。
- ・総論部分を論ずるにあたって、まず全体の枠組みを整理することが重要ではないかと考え、スポーツに焦点をあてた諸外国のスポーツ戦略の中から日本に最も参考になる事例として、英国のスポーツ戦略の枠組みを紹介する。

スライド2：海外事例：英国のスポーツ戦略（枠組み）

- ・英国政府が2015年12月に発表した「Sporting Future: A New Strategy for an Active Nation（アクティブな国に向けた新戦略）」では、5つのアウトカムが大目標として設定され、アウトカムに基づいてアウトプットとアクションが設定されている。

スライド3：海外事例：英国のスポーツ戦略（主な内容）

- ・その政策文書には、枠組みのほか、政府の役割、3つのアウトプットに基づくアクションの具体的な内容、効果測定の方法が記載されている。効果測定では、アウトカムとアウトプットの達成状況を評価する。アウトプット評価については、それぞれKPIが設定されている。

スライド4：海外事例：英国のスポーツ戦略（KPIの例）

- ・KPIの具体的な内容を紹介。
- ・スポーツ・身体活動の参加促進として6つのKPI、ボランティアの増加として2つのKPI、スポーツ観戦として1つのKPIが設定されている。
- ・これらのKPIは、する・観る・支えるといったスポーツ参画促進を進めていく日本の参考になりうる。

スライド5：骨子案の枠組みについて（案）

- ・骨子案の枠組みもこのようなアウトカム・アウトプット・KPIを設定していくのが正しいのではないか。
- ・厚労省のガイドラインとの違いや効果測定も可能になる。
- ・大目標のアウトカムは、スポーツ基本法や基本計画に則って設定するのが望ましい。

スライド6：骨子案の枠組み（案）

- ・これはあくまでも枠組みのイメージ案であるが、例えば、アウトカムとして、スポーツ参画促進、共生社会の実現、地域活性化、スポーツ産業活性化を設定する。
- ・アウトカムを達成するためのアウトプットとアクションもそれぞれ例示した。具体的

なアクションとして、詳細な現状分析とそれに基づく施策を立案し、行動変容につなげ、その結果を評価する。

スライド7：スポーツ参画に向けて行動変容を促すための視点

- ・行動変容を促すための視点を説明。スポーツを消費財と捉え、消費者志向で検討する事が重要である。動機付けや阻害要因を明らかにし、非実施層に届くメディアや方法を用いる。

スライド8：骨子案におけるステークホルダーの役割（案）

- ・「する・観る・支える」のスポーツ参画促進の骨子案に関わるステークホルダーとその役割を図示した。諸外国の事例を参考に、日本国内の組織を位置づけている。
- ・この図で網羅できていないステークホルダーもあるかもしれないが、幅広い関係機関をステークホルダーとしながら、連携・協働して事業を進めていくことが海外でも行われている。

諸外国スポーツ計画記載項目

国、連邦

国名	英国	ニュージーランド	
文書名	英国全体 スポーツ・インテグレーション：アクティブな国家に向けた新戦略	コミュニティスポーツ戦略2015-2020	
原題	Sporting Future: A New Strategy for an Active Nation	Community Sport Strategy 2015-2020	
発行年月日	2015年12月	2015年3月	
発行者・部局	英国政府(HM Government)	スポーツ・ニュージーランド(Sport NZ)	
概要	グラスルーツからエリートまであらゆるスポーツを強化する国家戦略	世界で成功しているスポーツ立国であり続けることを目的とした戦略計画	
主な内容	<p>政府の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央政府 地域政府 分離地域政府 <p>フレームワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体的健康 身体活動に関するチーフメディカルオフィサーのガイドラインを満たすイングランド国民の割合の増加 身体的に不活動なイングランド国民の割合の減少 精神的健康 主観的な健康状態の改善 個々の成長 知覚される自己効力感の水準の増加 社会とコミュニティの発展 社会的信頼性の水準の向上 経済発展 英国経済に対するスポーツの経済的価値 <p>様々な背景を持つ多くの人々が、スポーツ・身体活動、ボランティア活動、ライブスポーツに定期的に、有意義に参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加 身体活動 子供、若者 最前線の労働力 ボランティア活動 ライブスポーツ体験 <p>国内外のスポーツの成功やメジャーイベントのインパクトの最大化</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な成功 国内での成功 メジャースポーツイベント <p>より質的、持続可能な、責任あるスポーツ部門の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 財政的持続可能性 インフラ スポーツ・インテグリティ ガバナンス リーダーシップ、アドミニストレーション 安全、ウェルビーイング <p>インパクトの測定</p>	<p>導入</p> <p>新たな課題と機会への対応</p> <p>投資原則</p> <p>パートナーとの活動</p> <p>投資プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 不活動への対策 子供、若者 ボランティア活動 マスマーケットでのスポーツ・身体活動の活用 スポーツコアマーケティングの支援 地域へのサービス提供 施設 <p>サービス提供の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな人材戦略 コーチングプラン 明確な目的、秀でた分析、評価 	<p>戦略的アウトカム</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ・レクリエーションへの子供の参加増 90%の子供が組織化されたスポーツや非公式スポーツに、週3時間以上参加 スポーツ・レクリエーションへの国民の参加増 成人の参加率を増やす ボランティアを増やす <p>重点領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学期の子供 フィジカルリテラシーに焦点を当て、5歳から18歳の子供・若者が生涯にわたってスポーツ参加するために必要なスキルを身につける 地域提供 特に参加率の低いコミュニティを重点的に、地域のスポーツ提供関係者の連携を強化する 競技スポーツ タレント発掘を含む、既存の競技構造や競技パスウェイの参加者数を維持する <p>戦略的優先事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 知見、分析結果(インサイト) あらゆるレベルで情報が共有された参加者重視のスポーツシステム セグメンテーション、詳細な調査、分析、ベンチマーク、成功事例、事例分析、共有、革新的ソリューション 人材 スポーツ提供・参加者支援経験者のネットワーク構築 コーチ、教員、親、保護者、ボランティア、若手リーダー 空間、場所 国民がスポーツを実施する場の増加と改善 計画、設計、連携、プログラム作成 パートナー、事業提供者 優秀なパートナーをネットワーク化し、適切なスポーツ体験を提供 スポーツハブ、コミュニティスポーツ機能 計画、地域提供 パスウェイ 参加継続を推進するため、参加者に適切な機会と統合した経験を提供できるシステム フィジカルリテラシー、ライブステージに合った学び、競技大会、タレント育成、表彰台までのパスウェイ

国名	オーストラリア				カナダ
文書名	オーストラリアスポーツ：成功への道	全国スポーツとアクティブ・レクリエーション政策の枠組み	ブレイ・スポーツ・オーストラリア	Play Sport, Australia.	カナダスポーツ政策2012
原題	Australian Sport: The pathway to success	National Sport and Active Recreation Policy Framework	2010年6月	2010年3月	Canadian Sport Policy 2012
発行年月日	2010年5月11日	2010年6月	オーストラリア連邦政府	オーストラリア・スポーツコミッション(ASC)	2012年6月27日
発行者・部局	オーストラリア連邦政府 ※前政権	オーストラリア連邦政府 ※前政権	オーストラリア連邦政府 ※前政権	オーストラリア・スポーツコミッション(ASC)	連邦政府・州政府・準州政府のスポーツ・身体活動・レクリエーション担当相
概要	新政策として3つの主要目標を設定	オーストラリア連邦政府 ※前政権	オーストラリア連邦政府 ※前政権	オーストラリア・スポーツコミッション(ASC)	2012-2022年の総合的なスポーツ政策
主な内容	<p>①スポーツ参加(実施・関与)の向上 ・教育を通じて子どもたちのスポーツ参加を向上させる ・競技団体を支援してコミュニティ参加とソーシャルインクルージョンを向上させる ・障がいのある人、選手を支援する ・女子・女性のスポーツ参加の障壁を取り除く ・先住民のスポーツ参加の障壁を取り除く ・スポーツする場の整備</p> <p>②スポーツ・パフォーマンスの強化 ・地域のボランティア・コーチ・審判の支援 ・コミュニティスポーツと参加促進への選手の関与を最大化する</p> <p>③成功に向けた取り組み ・ハイパフォーマンスのコーチ・審判に対する支援 ・国際大会参加のための支援強化 ・ハイパフォーマンス選手への投資 ・インベンション、リサーチ、選手のトレーニング環境の向上 ・ハイパフォーマンス機関・アカデミーの改革 ・ドーピング対策の継続</p>	<p>目的</p> <p>行動原則(スポーツとアクティブ・レクリエーションに関する制度における連邦政府と州・準州政府の役割と責任)</p> <p>関係機関に対する連邦政府と州・準州政府の期待</p> <p>モニタリング、評価、レビュー</p> <p>優先領域と目標・評価指標</p> <p>①参加促進</p> <p>②国際競技力</p> <p>③国内選手権</p> <p>④システムの特長可能性</p> <p>⑤システム間の連携、協働</p> <p>⑥広範な目的達成への寄与</p> <p>⑦リサーチとデータ見直し</p>	<p>目的</p> <p>地域スポーツクラブを中心とする組織的なスポーツ活動に参加する国民(特に若者)を増やすこと</p> <p>組織見直し</p> <p>以下の3つの部門をASC内に設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをめぐっての現状の分析を行う「スポーツ・インサイト部門」 ・参加促進策を進める「スポーツ参加部門」 ・競技団体の機能強化を支援する「スポーツガバナンス・ビジネス機能部門」 <p>現状分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的なスポーツ活動への参加がここ数年で1/4に減少、特に18-19歳で組織的なスポーツ活動への参加が大幅に減少 ・一方、組織的なスポーツ活動に興味はあるが時間が足りない、お金がない人も約450万人いる ・現状分析には、スポーツ参加動向だけでなくスポーツ産業の動向も含まれている <p>重点行動領域</p> <p>①スポーツ・インサイト部門：参加状況を変化させるインサイト(より深い理解・測定により状況を把握)</p> <p>②スポーツ参加率の全国調査を導入し毎年実施(従来は大人と子供に調査が分かれていたが統合し身体活動も含める)</p> <p>③スポーツ産業研究</p> <p>④Clearinghouse for Sport: スポーツ情報・知識共有デジタルポータル</p> <p>⑤知識の仲介: スポーツ戦略・計画の改善のため、知見や情報をスポーツ界で共有</p> <p>⑥二年に一度のフォーラム開催: 課題に関する議論、情報共有、スポーツ間の協働等につなぐ</p> <p>⑦スポーツ参加部門: 生涯スポーツ参加のための動機付け(若者に焦点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Sporting Schoolsプログラム: 5歳から12歳の子供と13歳の若者に焦点を置いた参加促進プログラム、授業前・授業中・放課後に子供がスポーツに直接触れる機会を提供 ・スポーツ参加促進への投資: スポーツ参加を促進するため中央競技団体への投資を継続、新たなスポーツのカテゴリー化と透明性のある投資を行う ・参加促進戦略支援: 参加促進戦略を推進する選ばれた中央競技団体と密接に連携するとともに、州・地域のスポーツ・レクリエーション担当部局、スポーツ団体、学校スポーツ部門等による活動の便益を最大化 ⑧スポーツガバナンス・ビジネス機能部: スポーツ組織の能力開発(国内中央競技団体の強化) ⑨ガバナンス改革: 効果的なガバナンス改革を通じて組織能力の構築を後押し <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発 商業的持続可能性 ・人材: スポーツをコミュニティに提供するために必要な人材(質・量)の育成 ・コーチ、審判: コーチと審判のニーズを満たすトレーニング・教育・支援プログラムを開発 ・施設・設備 ・デジタルリーダーシップ ・Play by the Rules(スポーツ・インテグリティ) ・競技団体の理事会メンバー登録制度(女性理事の推進) 	<p>政策のビジョン</p> <p>スポーツ参加と競技力向上を推進するダイナミックで革新的な文化</p> <p>政策の価値</p> <p>楽しさ、安全性、卓越性、コミットメント、個人の成長、インクルージョンとアクセシビリティ、尊重とフェアプレーと道徳的な行動</p> <p>政策原則</p> <p>①価値に基づくスポーツプログラム: 道徳的な行動を推進する</p> <p>②インクルージョン: 多様な社会で能力や関心に関わらず誰もが平等に参加できる</p> <p>③現時的、長期的な参加促進のためにはパーティーインベンション・パスウェイ・モデルも存在する</p> <p>④協働、教育やレクリエーション等の他分野の関係者や地域組織、民間組織と連携する</p> <p>⑤計画的、アウトカム達成のために明確な目標に基づいてプログラムを立案する</p> <p>⑥持続可能性: 組織能力向上やパートナーシップ、リソース共有によってシステムの目標を達成する</p> <p>政策目標</p> <p>①スポーツ実施: 基本的な運動能力、組織的・非組織的なスポーツ活動への参加</p> <p>②レクリエーション: スポーツ、楽しみ、健康・社会的なつながり・リラクゼーションのためにスポーツ参加</p> <p>③競技スポーツ: 安全かつ道徳マナーのある競技大会で他者と競い、競技力を高める</p> <p>④ハイパフォーマンス: スポーツ・ハイレベルの国際大会で公正かつ倫理的に世界レベルの結果を達成する</p> <p>⑤開発のためのスポーツ: 国内外でポテンシャルな価値を推進し、社会・経済発展のツールとしてスポーツを活用する</p>	

州名	オーストラリア	クイーンズランド州	タスマニア州	西オーストラリア州
州名	オーストラリア首都特別地域	クイーンズランド州	タスマニア州	西オーストラリア州
文書名	ACT地域におけるスポーツとアクティブ・レクリエーション戦略計画 2011-2020	国立公園・スポーツ・レクリエーション戦略計画2016-2020	タスマニア州身体活動計画2011-2021	西オーストラリア州のスポーツ・レクリエーション産業における戦略的方向性2016-2020
原題	A Strategic Plan for Sport and Active Recreation in the ACT & Region 2011-2020 (ACTIVE 2020)	National Parks, Sport and Racing Strategic Plan 2016-2020	Tasmania's Plan for Physical Activity 2011-2021	Strategic Directions for the Western Australian Sport and Recreation Industry 2016-2020
発行年月日	2011年4月	2016年	2011年2月16日	2016年4月
発行者・部局	スポーツ・レクリエーション省	国立公園・スポーツ・レクリエーション省	身体活動評議会(州知事直下)	スポーツ・レクリエーション省
概要	首都特別地域 (ACT) におけるスポーツとアクティブ・レクリエーション戦略計画	クイーンズランド州における2016-2020年度の国立公園・スポーツ・レース戦略計画	タスマニア州における2011-2021年の10年間の身体活動推進計画	西オーストラリア州におけるスポーツ・レクリエーション産業における戦略的方向性2016-2020
主な内容	<p>ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツとアクティブ・レクリエーションで首都地域を豊かにアクティブにする ・そのために、スポーツやレクリエーションの経済的・社会的価値と、コミュニティの健康とウェルビーイングをつなげて推進する連携システムで支える <p>戦略的フレームワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 2011-2020年における戦略的優先事項として以下の7つを掲げ、それぞれについてアウトカムや評価指標を設定 ①スポーツやアクティブ・レクリエーションにおけるコミュニティの参加を最大化 ②スポーツやアクティブ・レクリエーションによる健康・教育・社会的便益の理解向上と推進 ③スポーツやアクティブ・レクリエーションの受入や能力を向上させ、質の高い機会を提供 ④優れた個人的な成功の機会を最大化 ⑤持続可能な優れたチームパフォーマンスの機会を最大化 ⑥国内でスポーツ都市のイメージを醸成 ⑦インフラとリソースへの支援を最大化 <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①競技型・非競技型スポーツ、ソーシャルスポーツ、アクティブ・レクリエーションへの参加をあらゆるレベルで増やすこと ②スポーツパフォーマンスにおける卓越性を達成するための機会を提供すること ③活動を提呈する場として質の高い持続可能なインフラにアクセスできるようにすること <p>ステークホルダー</p> <p>価値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACTIVE2020は以下の価値に基づいて開発・実施する ①産業界と政府からのリーダーシップ ②活動・プログラム・施設へのアクセスとインクルージョン ③持続可能性(環境・経済・社会の観点における) ④実行可能性(コミュニティの範囲における参加維持) ⑤プログラム開発や施設利用における柔軟性と適用性 ⑥明白なコミュニケーション(定期的、適正、両方向) 	<p>ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康的な公園やアクティブなライフスタイルによってクイーンズランド州の人々を豊かにすること <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公園や森、グレートバリアリアーフを現世代と未来世代のために保護・管理すること ②身体活動への積極的な参加を推進・支援すること ③州内のレース業界を支援すること <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の各目標について戦略と評価指標を設定 ①州内の素晴らしい公園や森を保護し、現在から未来にわたって楽しむこと ②州内の人々が身体活動への参加を通じて健康でアクティブなライフスタイルを牽引すること ③レースに関して、コミュニティの期待に応える法的・政策的フレームワークの立案 ④能率的かつ合理的で顧客重視の組織づくり <p>2016-17年度の優先事項 20項目を列記</p> <p>主な課題と機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①気候変動と生物多様性に対する危機 ②テクノロジーとイノベーション ③デモグラフィック(人口動態上の)要因: 世代・文化による違い、都市化など ④時代に合った法的・政策的フレームワーク <p>コミュニティに対して州政府が設定している目標への コミットメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ①雇用創出と多様な経済の実現 ②質の高い最先端のサービス提供 ③環境保護 ④安全で人々を気遣い、つながりのあるコミュニティづくり 	<p>ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な身体活動実施による便益をすべてのタスマニア州の人々が体験・享受すること <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①身体活動に価値を置き支援するコミュニティになること ②身体活動を推進・実施できる環境を作り出すこと ③知識やリソースを共有するパートナーシップを築くこと ④人々が生活の場、職場、遊び場で身体的にアクティブになる機会を増やすこと <p>モニタリングと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗レポートを毎年作成、3年ごとに詳細な分析レポートを作成して分析から得られた知見を次の3年間の実行計画に繋がる ・以下の2つの数値目標の達成度をモニタリングする ①10年間で身体活動の参加率を10%増加(5-12歳、12-17歳、18歳以上の3つの年齢層で参加率を見る) ②10年間で定期的な身体活動に参加して生活面で変わったという報告を1000事例集める(毎年100件収集、オンライン投稿や郵送で報告を募集) 	<p>対応すべき13の重要課題領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス ・インテグリティと価値 ・公共のオープンスペースと都市環境 ・アドバイザー&アウトドアレクリエーション ・商業化 ・リーダーシップとマネジメントにおける多様性 ・不確定な財政状況 ・施設投資の活用 ・ライフコースとライフステージによる参加促進 ・モニタリング・エビデンス・調査研究 ・平等な参加機会(文化等の違いにかかわらず) ・テクノロジー ・ボランティアの関与 <p>上記のうち特に重要な3つの領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス ・インテグリティと価値 ・公共のオープンスペースと都市環境

国名	カナダ	アルバータ州	アルバータ州
州名	オンタリオ州	オンタリオ州	アルバータ州
文書名	ゲーム・オン - オンタリオ州政府スポーツ計画	ゲーム・オン - ディスタンス: アルバータ州スポーツ計画2014-2024	アルバータ州政府
原題	Game ON - The Ontario Government's Sport Plan	Going the Distance: The Alberta Sport Plan 2014-2024	アルバータ州政府
発行年月日	2015年15月	2014年7月25日	アルバータ州の10年間(2014-2024年)のスポーツ計画
発行者・部局	観光・文化・スポーツ省	観光・文化・スポーツ省	アルバータ州政府
概要	カナダ・オンタリオ州のスポーツ計画(2015年Pan/Para Am Gamesのレガシー)	カナダ・アルバータ州の10年間(2014-2024年)のスポーツ計画	アルバータ州の10年間(2014-2024年)のスポーツ計画
主な内容	<p>・スポーツに焦点をあて選手を中心に置いた結果志向の計画</p> <p>・参加(participation)、育成(development)、卓越性(excellence)の3つの分野を重視</p> <p>・各分野の専門家で構成される諮問委員会は、女子・女性のスポーツ参加向上機会に初年度取り組む</p> <p>○参加 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手全員が安全で組織的なスポーツをできるようにすること ・オンタリオ州の人々が組織的なスポーツに参加・関与できる機会を提供すること ・組織的なスポーツをする選手にポジティブな体験を提供すること <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの認識に関わる政策の見直し ・既存のスポーツプログラムの見直し、スポーツ界のパートナーと連携して少数派の人々(特に女子・女性)の参加を向上 ・教育省との連携によって、教育関係者やスポーツ関係者がスポーツを始める機会をより多く提供できるようにすること ・州内の「先住民スポーツ」や「ウェルネスカウンスル」と連携し、オンタリオ・ネイティブ・ウェルネスのためのスポーツパスウェイを実施 <p>○育成 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上にあたって選手が適正な支援を受けられること ・地方スポーツ団体(PSO)やマルチスポーツ団体(MSO)が監督している育成バスウェイを通じて選手が競技向上できるように、訓練されたコーチや審判、ボランティアを活用できるようにすること ・運営管理の負担・重複を削減して申請プロセスを改善するために助成プログラムを見直す ・選手が競技目標を達成できるよう、選手に質の高い競技体験・機会を提供する「ゲームズ・オンタリオ・プログラム」をリニューアルする ・優れた競技パフォーマンスを発揮したリススポーツシステムの進化に寄与した個人・組織を高く評価する ・Pan/Para Am Games開催で得られた知識をPSO/MSOに伝え、大芸スポーツサーが引き継ぎアマチュアスポーツに投資できるよう、リソースの活用によってPan/Para Am Gamesのレガシーを最大化する ・コーチやボランティアの採用・トレーニング・保有に対するPSO/MSOの取り組みを継続支援する <p>○卓越性 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイパフォーマンス競技で選手が卓越性を追求できるようにすること ・競争力のあるトレーニング・育成の機会や、最新のハイパフォーマンスプログラム・サービス・施設・テクノロジー、質の高いコーチ・テクニカルリーダー・スポーツ科学の専門家を選手に提供すること <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関係者と連携し、金メダル候補選手へのサポートプログラムを時代に合わせ、「カナダスポーツ機関オンタリオ」に長期的かつ持続可能な資金提供を行う ・公的な教育や認知向上キャンペーンを実施し、州内のアマチュア選手やアマチュアスポーツの偉業を讃える ・Pan/Para Am Gamesのインフラやボランティアというレガシーを活用して、スポーツイベントの開催機会を探る ・国際アマチュア選手権等のイベントにより多くの観客を呼び、マラソン等のスポーツイベント参加者を増やすために、スポーツツーリズム計画を立案し、スポーツを経済発展に活用する ・民間と協働で、商業的な投資をオンタリオのプログラムや民間のニーズに合わせる 	<p>・2004年からの10年計画を見直して刷新(政府責任→制度調整、アウトブット重視→アウトカム重視、参加増と卓越性追求に焦点→育成・参加・卓越性追求の全体像へ転換)</p> <p>・国のスポーツ政策や州政府の方針等に沿った内容(運動している)</p> <p>ビジョン</p> <p>アルバータ州は、卓越性の推進と生涯にわたるスポーツ参加の機会を育む協調性・順応性のあるシステムを有するスポーツ界における国内リーダーである</p> <p>スポーツシステム関係者が連携して取り組むべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロモーション ②スポーツの価値・便益を伝える、共通するメッセージの開発など、マーケティングやコミュニケーション活動を行う ③業界・省庁の連いの速い組織的な協働、教育機関・委員会との直接連携、地方自治体間の協調的な取り組み、スポーツ団体の効率性向上に取り組む ④キャパシティビルディング ⑤ガバナンスやリーダーシップ、組織能力といった組織的なキャパシティを向上させる ⑥コーチ、審判、ボランティア、スポーツプログラムを提供する学校の教師や地域リーダー、スポーツ運営スタッフ、親や観客に対して、トレーニングや教育を行う ⑦ITやソーシャルメディアの活用および全体像の把握によるイノベーション、研究開発や好事例の推進による知識の生産・統合を行う ⑧説明責任 ⑨モニタリング、評価、継続的な改善を実施する <p>スポーツシステムにおける提供・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成・競技・レクリエーションそれぞれのスポーツ環境でスポーツ機会の提供を検討(地域や学校でのプログラム、選手・コーチ・審判・ボランティア支援、レクリエーションプログラムへの参加促進等) ・Canadian Sport for Life (CS4L)と長期的な選手育成プログラムワークとの運動 	

諸外国スポーツ・身体活動ガイドライン事例

スポーツ・身体活動実施

世界保健機関（WHO）

○身体活動基準

- ・ 2015 年 1 月更新
- ・ 子供・青少年（5 歳～17 歳）／成人（18 歳～64 歳）／高齢者（65 歳以上）

アメリカ

○保健福祉省「国民身体活動ガイドライン」

- ・ 2008 年発表
- ・ 農務省との協働で作成した「国民栄養ガイドライン」を補完
- ・ 子供・青少年（5 歳～）／成人／高齢者
- ・ 安全な環境／妊娠中や産後の女性／障がいをもつ成人／慢性疾患を抱える人

●安全な環境へのキーガイドライン

- ・ すべての人にとって安全であるためのリスクを理解する。
- ・ 現在のフィットネスレベルや健康目標に適した身体活動の種類を選択する。
- ・ ガイドラインや健康目標を満たすためにさらなる活動が必要であれば、身体活動を次第に増やす。不活動な人々は、次第に増やすことで「ゆっくり初めて、ゆっくり増やす」。
- ・ 適切な用具を用いて、安全な環境を探して、ルールやポリシーに従い、いつ、どこで、どのような活動をするか適切に選択することで、自身を守る。
- ・ 慢性疾患やその徴候がある場合、医療従事者のケアのもとで実施すること。医療従事者に活動の種類や量を相談すること。

●妊娠中や産後の女性のキーガイドライン

- ・ まだ活動的ではなく、高強度の活動を行っていない健康的な妊娠中や産後の女性は、週 150 分の中等度の持久系活動を行うべき。週を通じて行うべき。
- ・ 妊娠中や産後も身体活動を継続できるほど習慣的に中等度の持久系活動や高強度の活動を行っている妊婦は、医療従事者と活動の程度や頻度を相談し、調整する。

●障がいをもつ成人のキーガイドライン

- ・ 中等度の持久系活動を週 150 分以上、または高強度の持久系活動あるいは中等度と高強度の持久系活動の組み合わせを週 75 分以上行うべき（1 回 10 分以上）。

- ・大筋群を用いた中等度から高強度の筋力強化活動を、週2日以上行うべき。
- ・ガイドラインを満たすことができない場合、自身の能力に合わせて、また不活動にならないよう、定期的な身体活動を行うべき。
- ・自身の能力に合わせた身体活動の量や種類について、医療従事者に相談するべき。
- 慢性疾患を抱える人へのメッセージ
 - ・定期的な身体活動から健康面で重要な利益を得ることができる。
 - ・自身の能力に合わせて活動すれば、身体活動は安全である。
 - ・医療従事者のケアのもとで実施すべき。自身の能力に合わせた身体活動の量や種類について、医療従事者に相談するべき。
- ・2018年版（更新）に向けて進行中

英国

○保健省「英国身体活動ガイドライン (UK Physical Activity Guideline)」

- ・2011年7月発表
- ・子供（5歳以下／5歳以下の歩行可能児）・青少年（5歳～18歳）／成人（18歳～64歳）
／高齢者（65歳以上）

カナダ

○カナダ運動生理学会「24時間ムーブメントガイドライン (24-Hour Movement Guidelines)」

- ・2016年6月発表
- ・5歳から17歳の子供・若者に対して、身体活動、座りがちな行動、睡眠を統合した24時間の行動ガイドライン
- ・子供や若者に「汗をかく、歩く、眠る、そして座る」ことを推奨
- ・健康的な24時間には、1日60分間の中等度から高強度の身体活動、数時間の様々な形式化されたものや形式化されていない軽度の身体活動、5歳から13歳までは一晩に連続した9時間から11時間の、14歳から17歳には8時間から10時間の睡眠、そして1日2時間以下の気晴らしのスクリーンタイムが含まれる

○カナダ運動生理学会「カナダ座りがち行動ガイドライン (Canadian Sedentary Behaviour Guidelines)」

- ・2012年発表
- ・子供（4歳以下）／子供・青少年（5歳～17歳）／成人（18歳以上）

○カナダ運動生理学会「身体活動ガイドライン (Canadian Physical Activity Guidelines)」

・2011年・2012年発表

・子供（4歳以下）／成人（18歳～64歳）／高齢者（65歳以上）

・障がいや疾病を抱える成人対象：多発性硬化症、脊髄損傷、パーキンソン病

オーストラリア

○保健省「オーストラリア身体活動・座りがち行動ガイドライン (Australia's Physical Activity and Sedentary Behaviour Guidelines)」

・2014年発表

・子供（5歳以下）／子供（5歳～12歳）／青少年（13歳～17歳）／成人（18歳～64歳）
／高齢者（65歳以上）

ニュージーランド

○保健省「食事・活動ガイドライン (Eating and Activity Guidelines)」

・2015年11月発表

・子供（5歳以下）／子供・青少年（5歳～18歳）／成人（18歳～64歳）／高齢者（65歳以上）

(参考)

○欧州連合 (EU) 「EU 身体活動ガイドライン (EU Physical Activity Guidelines)」 (2008年)

○アイルランド保健児童省 「The National Guidelines on Physical Activity for Ireland」 (2009年)

脳震盪

ワールドラグビー

○ワールドラグビー脳震盪ガイドライン

- ・成人（18歳以上）、青少年（12歳から18歳）、子供（12歳以下）の男女のプレイヤーに対するガイドライン

カナダ

○カナダ脳震盪共同体（Canadian Concussion Collaborative）「脳震盪マネジメントプロトコル」

- ・スポーツ団体が実際のスポーツ、環境、資源に活かせる脳震盪予防の原則を適応させることに役立つ

安全対策

○International Safeguarding Children in Sport Working Group 「International Safeguards for Children in Sport」

- ・2014年10月発表
- ・スポーツ事業者に対する子供の安全に関するガイドライン